


木について

宮坂静生



東京に宿木少な初閻魔  
孫文をかくまひ日比谷枯木宿  
もう淑氣放つことなき大櫓  
死木たり寒の濤音聞くばかり  
とろとろの死やとろろ揺る山椒の木

この冬木垂れ放題の大乳房

寒中の陽樹陰樹の翁面

木をよぎり懸巢一瞬木の擒とりこ

小さき本上木

鳥風やわがシャンパンのさくらいろ

牛蒡注連担ひ木の国鄙ひ猥わい唄うた

木のこころ根が抱きかかへ春隣

